

500円の図書券と  
 県立自然科学館の招待券と  
 NHKのど自慢ゲストサイン色紙が

# 当たる!

広報クイズ(20)

## 応募の方法は...

はがきに答えの記号(例●)は、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券を、二人にNHKのど自慢のゲストサイン色紙をプレゼント。

○あて先 〒950-112 白根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係  
 ○締め切り 十一月二十日(火)  
 ○抽選 十一月二十一日(水)に市役所に来られた人に抽選していただきます  
 ○発表 十二月一日号

## 今月の問題は...

- 十月十四日、カルチャーセンターでNHKテレビの人気番組が生中継されました。その番組名は何でしょう?
- A 昼のプレゼント  
 B 歌謡パレード  
 C のど自慢  
 (ヒント二ページ)
- いよいよ着工された白根北中学校。開校はいいつ?
- A 平成三年  
 B 平成四年  
 C 平成五年  
 (ヒント四ページ)
- 山崎興野の笠原春吉さん宅のジャンボヘチマ。どのくらい大きくなつたのでしょうか?
- A 一メートル四十センチ  
 B 一メートル八十センチ  
 C 二メートル  
 (ヒント六ページ)

## 当選おめでとう!

### [500円の図書券]

- ▶猪腰彦五さん(朝巻・27歳)
- ▶生野由香里さん(和泉・9歳)
- ▶遠藤勝徳さん(上下諏訪木・39歳)
- ▶丸山弘威さん(下木山・55歳)
- ▶鈴木キイさん(五六の町・57歳)

### [県立自然科学館招待券]

- ▶西村礼子さん(鍋湯)
- ▶柳通裕毅さん(戸石・5歳)
- ▶丸山正樹さん(下木山・27歳)



10月22日に市役所に来られた野口康さん(新潟市)に抽選していただきました。先月号の正解は①B②C③Cでした。応募総数は38通で、そのうち正解は32通でした。



### 私の思いと

#### 祖父の看病をして

渡辺光子さん(丸湯・地方公務員四十四歳)

嫁いで二十五年。一昨年祖母が八十九歳で亡くなるまで、三夫婦同居が二十二年続き、今年三月、祖父が九十六才の天寿を全うしました。高齢化社会へ向かう今、親の面倒を見る子供も高齢になっていきます。私たち

の両親も七十歳を過ぎ、祖父の面倒を見るには体力的にも無理がありました。共働きの私たちは日中思うように介護できず、心苦しく思っていました。祖父は一日中布団の中で天井を見つめて寝ていることが多く、

何の楽しみもないのでは、と思われました。心身共に衰えた祖父の世話をしながら、多くのことを考えさせられました。私の一考ですが、このような老人を昼間だけ預かり、世話をしても「託老所」とでも言いたまうか、そんな施設があれば老人も昼間はいろいろな人と触れ合うことができ、また家族も安心して働くことができるのではないのでしょうか。そして夜や日曜日は家族の世話を受けるながら過ごせば、寂しい思いも少ないのではと思うのです。祖父は身の回りの世話を「必ず」と言う人でした。それがとてもうれしく、一日の疲れを忘れさせてくれました。私もやがて老人になる日がやってきます。祖父のように、何もできなくなつても感謝の気持ちをもち続けたいと思っています。

# 市民談話室

## 原稿募集

12月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係(☎373-2111④333)です。



### 嫁と一緒に習い事

#### 家族の協力に感謝

長崎ミヨシさん(下茨・農業・六十歳)

何か習い事をやりたいと思っていたのですが、何しろ家は果樹農家なのでその余裕はありませんでした。そんなところへ友人から習字を習わないかという話がありました。私ももう六十歳。家のことは嫁が何でもやってくれるし、多少の時間の余裕もあるし、字を書くのが好きなので最後のチャンスと、思い切って習字とペン字を習うことに決めました。

四月から毎週土曜日の夜、一緒に通っています。二人一緒に行くことは多少の無理もありますが、家族の協力に感謝して出掛けます。場所は友人の家の一室を借り、家庭的な所で教えてもらっています。白紙に向かったときの緊張感。逆に無心に書くときの落ち着いた気持ち。ストレス解消に役立っています。六十の手習い、年が年です。上達は遅いですが、若い人たちについていけるよう頑張りたいと思います。

と、四月から毎週土曜日の夜、一緒に通っています。二人一緒に行くことは多少の無理もありますが、家族の協力に感謝して出掛けます。場所は友人の家の一室を借り、家庭的な所で教えてもらっています。白紙に向かったときの緊張感。逆に無心に書くときの落ち着いた気持ち。ストレス解消に役立っています。六十の手習い、年が年です。上達は遅いですが、若い人たちについていけるよう頑張りたいと思います。

### 時代の流れに

#### ヤングに思う

大野 修さん(堀掛・自営業・三十九歳)

現代はよく感性の時代といいますが、これでよいのだろうか? 最近気付いたことがある。若い人たちは一口に言っても、何を考えているか分からない。仕事をさせてもすぐ飽きる。この仕事をやっておいでと云って、しておかなくなったり、そのことだけしかやっておかなかつたりする。自分で考えて仕事をすることがないように思う。一言注意をすると、逆に反発して

理屈を言うのがうまい。世の中をうまく渡つていこうとしてる。すぐこの前まで公務員、大会社、安定した職業を探していた。それが今ではかっこいい仕事、横文字の多い会社、そしてお金になる会社。いわゆるホワイトカラー指向だ。

「ああ上野駅」という歌が大流行した時代だった。私は今の若い人たちについていけないところがある、いや、ついていけなさと時代に乗り遅れてしまう。



### 姑と私

#### 看病をしながら思うこと

田村房枝さん(日の出町・無職・四十八歳)

華やかな街新潟から、静寂な街白根へ嫁いで、はや二十五年の歳月が過ぎ去りました。その前半は、子育てなどいろいろな点で姑の世話になり、後半の十年は私が姑の面倒を見、明

暗くつきり別れた歳月となりました。だれもがそうだったように、青春をおう歌し、何物も恐れず、自由気ままに育つてきた半生に比べて、看病という拘束された十年は口では言い表せない、幾多の人生試練の場となりました。でも私は周囲の人々の協力、家族の協力を得て、ここまでやってこれたことを大変うれしく思っています。

### 短歌

熱ありて早退したる孫に添い  
 真昼の床に我も居眠る  
 中村 京

さや風に黄金穂は波打つとも  
 休耕青刈り見るは悲しき  
 小出よし

文明と文化はげしく変わる世に  
 取り残さるや吾大正つ子  
 小出熊四郎

### 市民文芸

川柳

ばあさんと呼ばれ無口になる女房  
 米野 光雄

芸一つ覚えた乳児の鼻の錠  
 荒木 イマ

城跡に佇つと名曲聴る  
 織田 セツ

ミニトマト置き土産にして逝つた夏  
 後藤マサノ

命の灯燃やして母はお経読む  
 佐藤トミノ

童心に帰る旅行の握り飯  
 佐藤 ヨキ

伯父母の断る判を友が呉れ  
 高橋拓四雄

オイと呼ぶ気軽な友がいて楽し  
 竹石 甚五

御利益は期待できない神無月  
 田中 成子

五穀手に神も出雲へ旅立たれ  
 田村 恒夫

なつかしい声が受話器の向こうから  
 時田 良子

貢献度計る大蔵省の魁  
 中村 尚治

手探りで櫛山行きの杖削る  
 西条 ムラ

口ほどでなかつた春りの酒で知り  
 山岡 フミ

妻の愚痴相槌だけで聞き流し  
 本間 雪江

横文字のカルテで揺れる心電図  
 吉川 彰

カルテを見る医師の表情を患者は  
 見逃さないもの。結果を聞く患者の  
 心臓は不安におのっている。

俳句

むつくりと雲立ち上がる残暑かな  
 古川 綾

星すてに凧々と秋澄へたる  
 公条 雪夫

色褪せしポスター残る晩夏かな  
 堀内ナナ子

溝番の紅き茂みや遠目にも  
 豊木サダ子

穏やかな二百十日の田を巡る  
 猪股 南魚

落桃の臍より蟻の食ひすすむ  
 山田 孝

木槿垣くぐり朝餉の香りかな  
 木村 トリ

手花火の手元見守る閑深し  
 細貝 漢子

風に道明けて蓮の葉片靡き  
 小林 すみ

窓開けて木犀の香の届きけり  
 小林 光子

(以上大風会)